

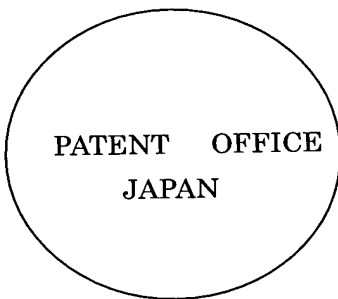
JAPAN PATENT OFFICE

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office

Date of Application: October 9, 2002

Application Number: TOKUGAN 2002-295916
[ST.10/C]: [JP 2002-295916]

Applicant(s): ZUIKO CORPORATION



September 9, 2003

Commissioner,

Japan Patent Office

Imai Yasuo

Japan
Patent
Office seal

Japanese Certificate Number: SYUSSYOUTOKU 2003-3073609

日本国特許庁
JAPAN PATENT OFFICE

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出願年月日 2002年10月 9日
Date of Application:

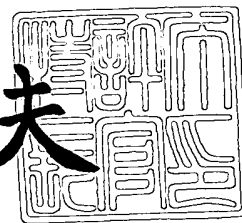
出願番号 特願2002-295916
Application Number:
[ST. 10/C]: [JP 2002-295916]

出願人 株式会社瑞光
Applicant(s):

2003年 9月 9日

特許庁長官
Commissioner,
Japan Patent Office

今井康夫



出証番号 出証特2003-3073609

【書類名】 特許願

【整理番号】 PK020578

【提出日】 平成14年10月 9日

【あて先】 特許庁長官殿

【国際特許分類】 A61F 13/15

【発明者】

 【住所又は居所】 大阪府摂津市南別府町 1 5 - 2 1 株式会社瑞光内

 【氏名】 一浦 雄三

【発明者】

 【住所又は居所】 大阪府摂津市南別府町 1 5 - 2 1 株式会社瑞光内

 【氏名】 中門 正毅

【発明者】

 【住所又は居所】 大阪府摂津市南別府町 1 5 - 2 1 株式会社瑞光内

 【氏名】 倉田 修平

【特許出願人】

 【識別番号】 591040708

 【氏名又は名称】 株式会社瑞光

【代理人】

 【識別番号】 100075502

 【弁理士】

 【氏名又は名称】 倉内 義朗

 【電話番号】 06-6364-8128

【手数料の表示】

 【予納台帳番号】 009092

 【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

 【物件名】 明細書 1

 【物件名】 図面 1

 【物件名】 要約書 1

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 吸収性物品

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 液透過性の表面シートと、液不透過性の防漏シートと、これらの表面シートおよび防漏シート間に介在された液保持性の吸収体と、を含む縦長状の本体を少なくとも有する吸収性物品において、本体が複数層に重なるように折り畳まれるとともに、折り畳まれた本体の表面シートおよび防漏シートの左右各側縁の重なり部分がそれぞれ接着されていることを特徴とする吸収性物品。

【請求項 2】 前記本体の表面シートおよび防漏シートの左右各側縁からウイング部がそれぞれ延出されていることを特徴とする請求項 1 記載の吸収性物品。

【請求項 3】 前記各ウイング部が表面シート側にそれぞれ折り込まれて、その外面に粘着剤が塗布されるとともに、両ウイング部の粘着剤塗布部にまたがって離型紙が貼着されていることを特徴とする請求項 2 記載の吸収性物品。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は、使用者が下着とともに狭い股間において着用する生理用ナプキン、失禁用パット、おりもの処理用パットなどの吸収性物品に関するものである。

【0002】

【従来の技術】

一般に、生理用ナプキンなどの吸収性物品は、基本的に、液透過性の表面シートと、液不透過性の防漏シートと、これらの表面シートおよび防漏シート間に介在された液保持性の吸収体と、からなる縦長状の本体を少なくとも有している。そして、吸収性物品は、本体の前後端縁および左右端縁からそれぞれ外方に延出する大きさの包装用シート上に、その防漏シート側が接するように配置され、長手方向にいわゆる三つ折り、すなわち、本体の前方部が包装用シートの前方部とともに折り畳まれて、本体の中間部に重ねられた後、本体の後方部が包装用シートの後方部とともに折り畳まれて、先に折り畳まれた包装用シートの前方部に重ねられて三層重ねられ、個別に包装されている（例えば、特許文献 1、特許文献

2 参照)。

【0003】

【特許文献1】

特開平9-10257号公報

【特許文献2】

特開平9-327478号公報

【0004】

【発明が解決しようとする課題】

しかしながら、吸収性物品が包装用シートによって個別に包装されていることにより、折り畳まれた吸収性物品が周囲に接触しないように、特に、肌に接することになる表面シートを露出させることなく折り畳み状態に保持することができるものの、吸収性物品の使用に際しては、包装用シートを開封しなければならず、また、開封された包装用シートは、廃棄物として処理されることになる。

【0005】

このように、吸収性物品を個別に包装する包装用シートは、資源を消費するばかりでなく、その処理費用を必要とするものである。

【0006】

本発明は、このような問題点に鑑みてなされたものであり、包装用シートを用いることなく使用前の折り畳み状態に保持することのできる吸収性物品を提供するものである。

【0007】

【課題を解決するための手段】

本発明は、液透過性の表面シートと、液不透過性の防漏シートと、これらの表面シートおよび防漏シート間に介在された液保持性の吸収体と、を含む縦長状の本体を少なくとも有する吸収性物品において、本体が複数層に重なるように折り畳まれるとともに、折り畳まれた本体の表面シートおよび防漏シートの左右各側縁の重なり部分がそれぞれ接着されていることを特徴とするものである。

【0008】

本発明によれば、本体を複数層に重なるように折り畳んで、それらの左右各側

縁の重なり部分を接着することにより、肌に接する側の表面シートを外方に露出することなく折り畳み状態に保持することができる。

【0009】

この結果、吸収性物品を個別に包装する包装用シートが不要となり、その分省資源となるとともに、処理費用が不要となる。

【0010】

本発明において、前記本体の表面シートおよび防漏シートの左右各側縁からウイング部がそれぞれ延出されていると、各ウイング部を下着の外面側に折り返すことにより、本体の、接着部となった左右各側縁部分を下着の外方に折り返すことができる。このため、接着部が肌に接触して不快感を覚えることがない。

【0011】

本発明において、前記各ウイング部が表面シート側にそれぞれ折り込まれて、その外面に粘着剤が塗布されるとともに、両ウイング部の粘着剤塗布部にまたがって離型紙が貼着されていると、ウイング部を表面シート側に折り込んだ状態に保持することができる。また、離型紙を剥離して各ウイング部を下着の外方にそれぞれ折り返すことにより、その粘着剤塗布部を介して下着の外面に各ウイング部を貼着することができる。このため、吸収性物品を下着に対して移動しないように固定することができる。

【0012】

【発明の実施の形態】

以下、本発明の実施の形態を図面に基づいて説明する。

【0013】

図1および図2には、本発明の吸収性物品である生理用ナプキン1の一実施形態が示されている。

【0014】

この生理用ナプキン1は、縦長状の本体2と、本体2の略中間部2Bにおいて、本体2の左右各側縁24とそれぞれ一体化された略台形状の一对のウイング部3とから構成されている。そして、本体2は、液透過性の表面シート21と、液不透過性の防漏シート22と、これらの表面シート21および防漏シート22間

に介在された液保持性の吸収体 23 と、を含み、本体 2 の左右各側縁 24、具体的には、表面シート 21 の左右各側縁に各ウイング部 3 がそれぞれ延設されている。

【0015】

ここで、各ウイング部 3 は、通常、表面シート 21 に接するように折り込まれており、その表面に粘着剤が塗布された粘着剤塗布部 3a を有している。また、左右のウイング部 3 の粘着剤塗布部 3a にまたがって離型紙 4 が貼着されて、各ウイング部 3 の自由端が本体 2 の左右各側縁 24 から幅方向外方に延出しないように、表面シート 21 と接する位置に保持されている。

【0016】

また、防漏シート 22 は、その表面に粘着剤が塗布された粘着剤塗布部 22a を有しており、この粘着剤塗布部 22a は、離型紙 5 が貼着されている。

【0017】

なお、ウイング部 3 を、表面シート 21 に接続するのに代えて、防漏シート 22 に接続することもできる。例えば、本体 2 の左右各側縁 24 において、表面シート 21 が防漏シート 22 の一部を覆っている場合、ウイング部 3 を表面シート 21 で覆われていない防漏シート 22 に接続してもよい。

【0018】

ところで、生理用ナプキン 1 は、本体 2 の表面シート 21 上に各ウイング部 3 が折り込まれて重なった状態で三つ折りされている。具体的には、本体 2 の前方部 2A が折り畳まれて、表面シート 21 同士が接した状態で中間部 2B に重ねられた後、後方部 2C が折り畳まれて、その表面シート 21 が先に折り畳まれた前方部 2A の防漏シート 22 に重ねられて三層重ねされている。そして、三つ折りされて三層重ねされた生理用ナプキン 1 は、本体 2 の表面シート 21 および防漏シート 22 の左右各側縁 24 の重なり部分がそれぞれ熱溶着や超音波溶着、あるいは接着剤などによって接着されている。このため、肌に接する側の表面シート 21 が露出しないように被覆されるとともに、その被覆状態に保持されている。

【0019】

この場合、前方部 2A の表面シート 21 と中間部 2B の表面シート 21 との接

着強度は、ウイング部 3 と表面シート 21 との接着強度よりも弱く設定されている。また、後方部 2C の表面シート 21 と前方部 2A の防漏シート 22 との接着強度は、ウイング部 3 と表面シート 21 との接着強度より弱く設定されている。さらに、前方部 2A の表面シート 21 とウイング部 3 が接着される場合、その接着強度は、ウイング部 3 と中間部 2B の表面シート 21 または防漏シート 22 との接着強度より弱く設定される。

【0020】

この結果、生理用ナプキン 1 は、肌に接する表面シート 21 を内方に隠蔽した状態で三つ折りされて三層重ねされるとともに、左右各側縁 24 が接着されて三層重ね状態に保持されていることから、包装用シートが不要となり、その分省資源となるとともに、処理費用が不要となる。

【0021】

次に、このように構成された生理用ナプキン 1 の使用方法について説明する。

【0022】

まず、三つ折り状態に保持された生理用ナプキン 1 を取り出し、本体 2 の後方部 2C の先端を摘んで、その折り畳み方向とは逆方向に折り返すことにより、後方部 2C の表面シート 21 および防漏シート 22 の左右各側縁を、前方部 2A の表面シート 21 および防漏シート 22 の左右各側縁との接着部から剥離させ、後方部 2C を中間部 2C に連続するように展開させる。同様に、本体 2 の前方部 2A の先端を摘んで、その折り畳み方向とは逆方向に折り返すことにより、前方部 2A の表面シート 21 および防漏シート 22 の左右各側縁 24 を、中間部 2B の表面シート 21 および防漏シート 22 の左右各側縁 24 との接着部から剥離させ、前方部 2A を中間部 2C に連続するように展開させる（図 3 参照）。

【0023】

この後、防漏シート 22 に貼着されている離型紙 5 を粘着剤塗布部 22a から剥離し、粘着剤塗布部 22a を下着の股部内面に貼着する。次いで、左右のウイング部 3 の粘着剤塗布部 3a 間にわたって貼着されている離型紙 4 を剥離した後、各ウイング部 3 を下着のクロッチ部回りに折り返して、下着の外面に貼着することにより、生理用ナプキン 1 を下着に対して移動しないように装着することが

できる。

【0024】

この際、各ウイング部 3 を外方に折り返すことにより、本体 2 の表面シート 2 1 および防漏シート 2 2 の左右各側縁のうち、接着部となった中間部 2 B の左右各側縁がウイング部 3 とともに下着の外方にそれぞれ折り込まれることにより、接着部が肌に接触して不快感を覚えることがない。

【0025】

なお、前述した実施形態においては、ウイング部 3 を有する生理用ナプキン 1 について説明したが、生理用ナプキン 1 に限定するものではなく、また、使用状況によっては、ウイング部 3 を必ずしも必要とするものではない。

【0026】

また、ウイング部 3 を本体 2 の中間部 2 B に設けた場合を例示したが、下着に移動しないように装着できればよいことから、前方部 2 A あるいは後方部 2 C にウイング部 3 を設けてもよく、その取付位置を限定するものではない。

【0027】

さらに、生理用ナプキン 1 を三つ折りして三層重ねした場合を例示したが、二つ折りであっても、四つ折りであってもよい。

【0028】

さらにまた、ウイング部 3 を本体 2 の中間部 2 B に設けて、各ウイング部 3 の折り返し時に接着部となる中間部 2 B の左右各側縁 2 4 を下着の外側面にそれぞれ折り返す場合を説明したが、ウイング部 3 の裾部分を長くするなどして、本体 2 の左右各側縁 2 4 全体を下着の外側にそれぞれ折り返すようにすることが好ましい。

【0029】

また、防漏シート 2 2 の表面に粘着剤を塗布して粘着剤塗布部 2 2 a を設けた場合を例示したが、必ずしも粘着剤塗布部 2 2 a を設ける必要はない。

【0030】

【発明の効果】

このように本発明によれば、包装用シートを用いることなく生理用ナプキンな

どの吸収性物品を折り畳み状態に保持することができることから、吸収性物品を個別に包装する包装用シートが不要となり、その分省資源となるとともに、その処理費用が不要となる。

【図面の簡単な説明】

【図 1】

本発明の吸収性物品である生理用ナプキンの一実施形態を示す斜視図である。

【図 2】

図 1 の生理用ナプキンの X-X 線断面図である。

【図 3】

図 1 の生理用ナプキンを使用するため接着部分を剥離した状態を示す斜視図である。

【図 4】

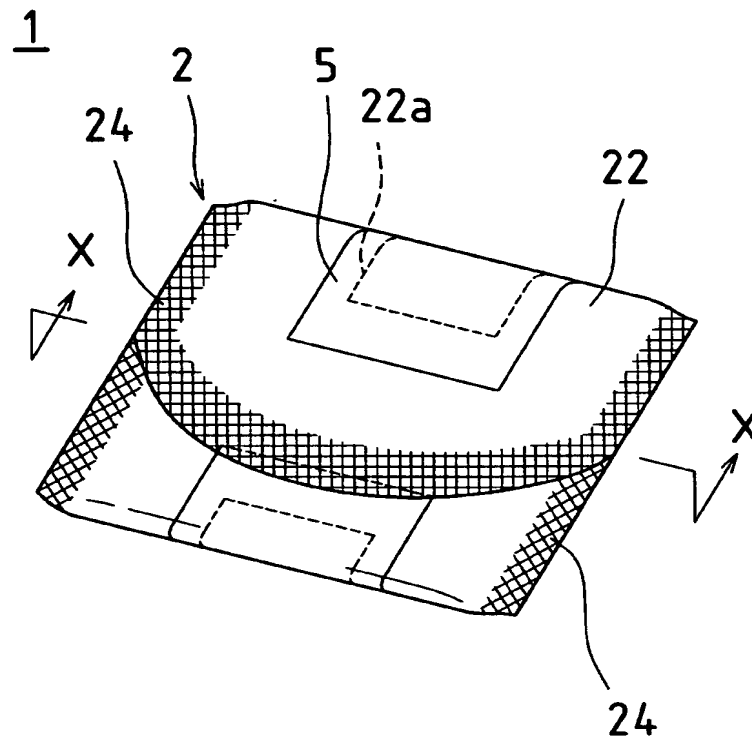
図 1 の生理用ナプキンを下着に装着する状態を示す斜視図である。

【符号の説明】

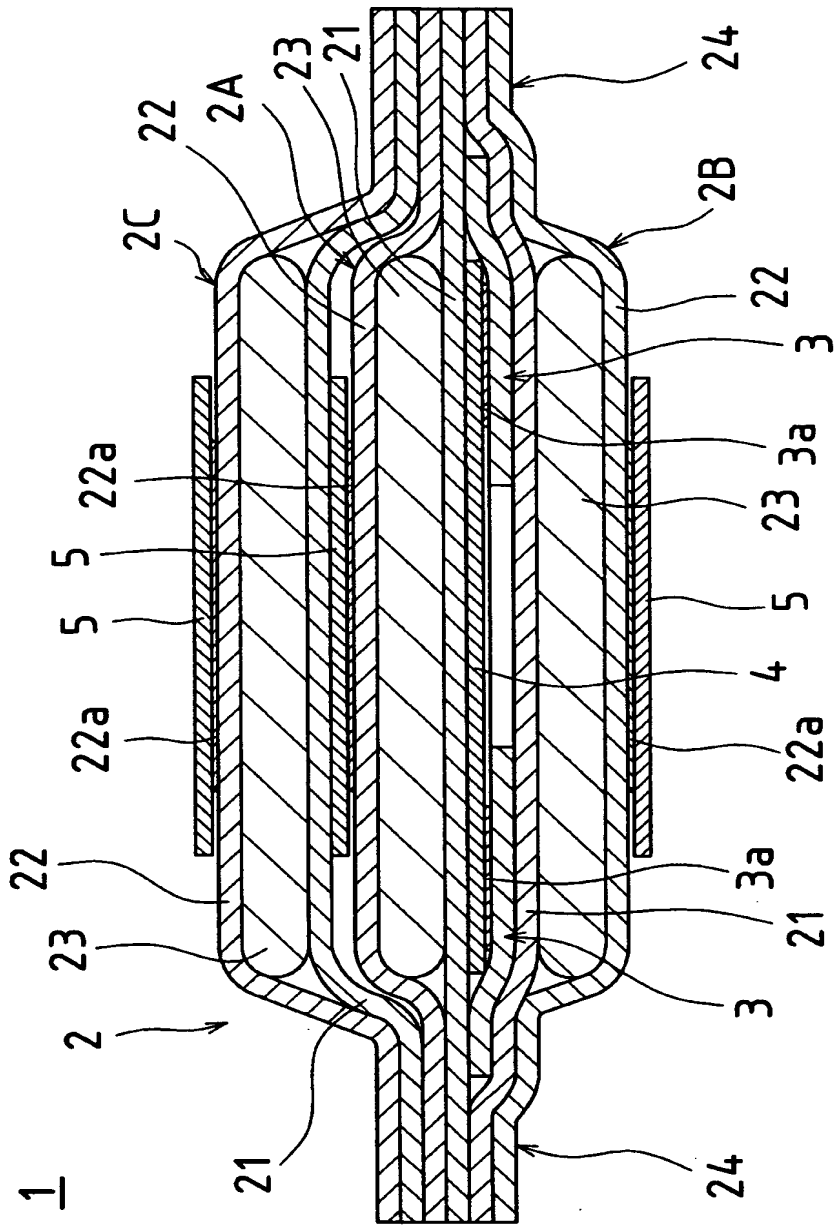
- 1 生理用ナプキン
- 2 本体
 - 2 A 前方部
 - 2 B 中間部
 - 2 C 後方部
 - 2 1 表面シート
 - 2 2 防漏シート
 - 2 2 a 粘着剤塗布部
 - 2 3 吸収体
- 3 ウイング部
 - 3 a 粘着剤塗布部
- 4, 5 離型紙

【書類名】 図面

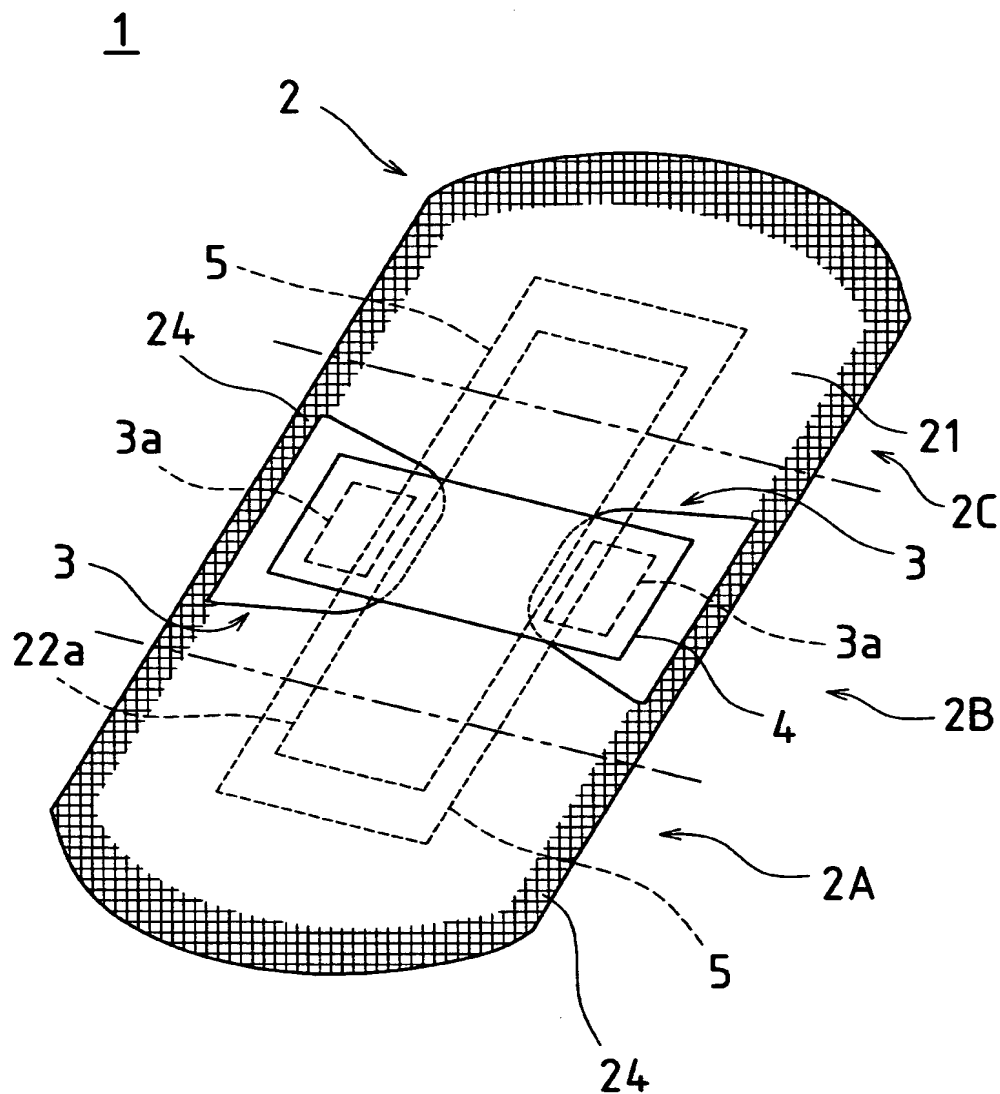
【図 1】



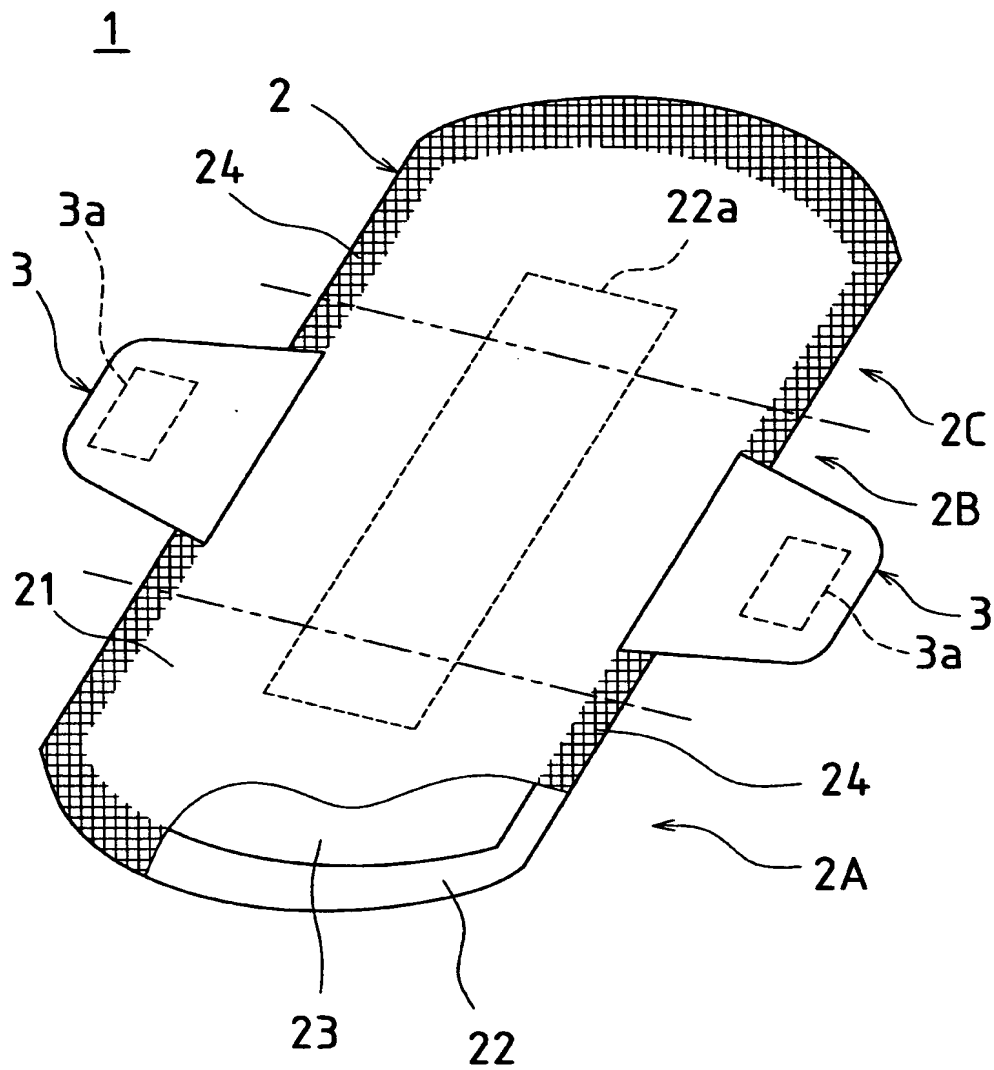
【図 2】



【図 3】



【図 4】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 包装用シートを用いることなく、肌に接する側となる表面シートを露出することなく折り畳み状態に保持する。

【解決手段】 液透過性の表面シート 21 と、液不透過性の防漏シート 22 と、これらの表面シート 21 および防漏シート 22 間に介在された液保持性を吸収体 23 と、からなる縦長状の本体 2 を有する吸収性物品、例えば、生理用ナプキン 1 において、本体 2 が折り込まれて複数層に重なるとともに、複数層に重なった本体 2 の表面シート 21 および防漏シート 22 の左右各側縁の重なり部分がそれぞれ接着されている。

【選択図】 図 2

特願 2002-295916

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号

[591040708]

1. 変更年月日

1990年12月20日

[変更理由]

新規登録

住 所

大阪府摂津市南別府町15番21号

氏 名

株式会社瑞光